



コロナ禍もすでに3年、世界に目を向ければ緊迫したウクライナ情勢、それに係わる社会経済の混迷など、先行きの見通せない状況が続いております。過去の戦争や維新など、予想外の大きな力によって未来への展望に大きな変化が起こることを経済学の用語で「ビッグプッシュ」というそうです。今の社会情勢もそれにあてはまり、良くも悪くも、それが過ぎ去った後の世界は確実に変わる、と言われていています。そうした中、身近なところに目を向ければ確かに私たちの周りにも大きな変化がもたらされました。コロナ禍がきっかけとなったテレワークやオンライン会議の普及もそのひとつです。会議のための移動もなく、マスクをはずして会話ができる等の利点もたくさんあり、この便利なシステムはコロナ収束後も確実に続いていくと思われまます。しかし実際に何度も経験してみると、リモートでは意思の疎通が不十分な気もしています。これが続いていくと人との接し方や、人への意識が変わってしまうのではないかということです。対面式を主としたコロナ以前、リモートの活用が進んだコロナ以降、二つの方式の良いところを今しっかりと確認し、コロナ後に備えたいものです。

さて、先日何気なく目を通した新聞に、九学の先輩にまつわる記事を発見しました。

以下記事原文…「蔵原先生詩碑 / 埼玉県飯能市」埼玉県飯能市に名所、天覧山がある。家族連れがハイキングにやって来る見晴らしのよい山。登山口に蔵原先生詩碑がある。隣には奥武蔵自然公園の表示。蔵原伸二郎は明治32年、熊本県の生まれ。父親は阿蘇神社の神官だった。慶應義塾大学文学部仏文学科に学び、同級に青柳瑞穂や石坂洋次郎がいた。詩人、作家、評論家として活躍し、『三田文学』『コギト』に作品を発表。戦火を避けて飯能市にやって来たのは昭和20年、後半生をこの地で過ごした。町の人々から慕われ、不遇だったが不幸ではなかったという。昭和40年に物故。代表的詩集『岩魚』には飯能市の山川が色濃く投影されている。…

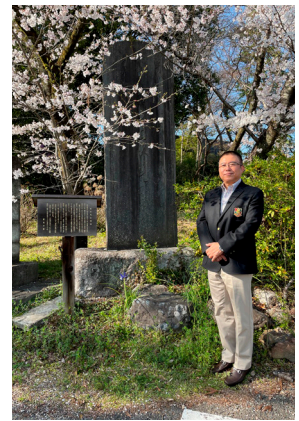
小生、詩歌には全く造詣がなく、失礼ながらこの記事を読んだ時には蔵原伸二郎先生の名を知りませんでした。本当に軽い気持ちで目を通しましたので、文中に「熊本県の生まれ」それから「阿蘇神社」の文言がなければ完全に読み飛ばしていたはず。同窓会の幹事を長

年やっている者の習性で「熊本県の生まれ」と聞くと、すぐに出身校が気になるわけです。予感めいたものを感じながら調べてみると、蔵原先生、やはり九学のご出身でした。旧制3回(1918年)卒業、九学のホームページ内『九学の歴史に輝く人々』でも紹介されておりました。これは小生以外の卒業生には

周知のことか?と自らの不勉強を恥じつつさらに調べますと、本名は蔵原惟賢(これかた)父は阿蘇神社直系の神官で母は医学者北里柴三郎の妹。とあります。大学在学中に詩を書き始め、のちに発表した詩集『東洋の満月』『猫のゐる風景』『岩魚』などは川端康成や石坂洋次郎からも絶賛され多くの賞を得たそうです。詩碑は天覧山の他に阿蘇市の生家跡にも残っています。飯能市在住で蔵原先生の弟子として長年付き添った町田多加次氏によると「蔵原先生の住まいは、当時飯能文壇の中心ようになっていて、詩ばかりでなく短歌や俳句をたしなむ人も先生の周りに集まっていました。また詩は分からなくても先生の人柄にひかれてやって来る人も大勢いました」と当時の様子を語っておられます。お気づきかと思いますが、先の新聞記事、また町田氏の回想の中にも蔵原先生の人徳を示す箇所が見受けられます。私たちがそうであるように、蔵原先生の人柄にも、きっと九学で過ごされた影響が大きく反映していたであろうことを思うと、うれしさとともに親近感が沸いてきます。

桜の頃、天覧山を訪ねました。「役に立つ善人」として慕われた一人の同窓生がここにも存在したのだなあ、と思いながらとても感慨深く碑を眺めてきました。碑に刻まれた詩です。「野狐の背中に雪がふると / 狐は青い影になるのだ / 吹雪の夜を山から一直線に走ってくる / その影・・・」飯能市郊外の山川を眺めながら、生まれ故郷の阿蘇の風景を懐かしんでおられた先生の様子が目に浮かびます。

最後に出版物のご紹介です。九学の卒業生で、オリンピック柔道の金メダリスト、バイカー兼秋選手とウルフ・アロン選手を育てた名指導者竹内徹先生(S30)がこの春



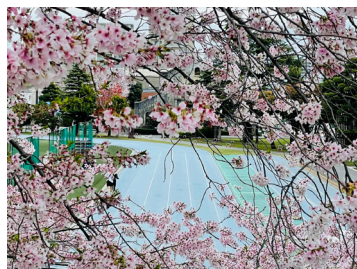
柔道の指南書『ワールド柔道』を出版されました。ベイカー選手、ウルフ選手他名だたる名選手が惜しげもなく自らの技を披露しています。(技はQRコードによって動画で見ることができます)

さらに、文中には先生の指導哲学に大きな影響を与えた九学でのエピソードがふんだんに盛り込まれており、柔道関係者のみならず卒業生にとっても大変興味深い内容となっています。全国書店にて絶賛発売中です。是非ご覧下さい。



会長 S30 島本 誠

= 同窓会事務室の窓から =



例年になく長くて厳しい冬も終わり、この文章を書いている今(4月1日)、九州学院のキャンパスには桜の花が実に見事に咲き誇り心が癒やされます。戦争や疫病が早く終息して本当の意味での春がやって来ることを心から願っています。

3月1日に高校(S74回)、また3月13日には中学校(J75回)の卒業証書授与式がそれぞれ行われ高校336名、中学校106名が学び舎を巣立ちました。もうじき中高の新生を迎え新しい九州学院の歴史の一ページが始まります。

先日発行の「九学通信132号」にお知らせした通り同窓生の各分野での活躍には目を見張るものがあります。また、現役の生徒たちも全国大会で好成績を納めるなどよく頑張っています。6月に発行予定の九学通信、同窓会新聞をどうかお楽しみに。

さて、今年始めのことですが、東京の某テレビ番組制作会社のディレクターから「ヘレン・ケラー女史の通訳

をした故佐々木千歳先生(在職:1948年~1978年)のことを聴きたい」との依頼が同窓会事務局にありました。先生は私の高校時代のESS(英会話部)顧問で大変お世話になった恩師であり、先日再放送された『Youは何しに日本へ』の中に出てくるシェークスピアの英語劇「ベニスの商人」のシナリオも書いて頂きました。

後日、東京からディレクターが九州学院同窓会室に来られ、佐々木先生の甥にあたる中原康彦氏(S25回・父は故中原康磨先生)にも同席を願い、二人で取材に応じました。



そして、3月30日水曜日深夜にNHKBS《4K》の番組「偉人に挑戦!ヘレン・ケラーと宮本武蔵」という番組が放送されました。その中で、ヘレン・ケラー女史が8年ぶりに佐々木先生と再会した時に握手し、その手の感触だけで誰であるか判り「おー、ササキ」と口を動かしたというエピソードが興味深い形で紹介されていました。4月~5月にかけてNHKBSで再放送がありますので、是非ご覧頂きたいと思います。



ヘレン・ケラー女史(中央)
佐々木千歳先生(左)

ところで、2018年から始まった「九州学院創立110周年震災復興募金」もやがて終了となりますが、皆様のご協力により目標の1億2千万円の約80%にあたる約9千4百万円(昨年末時点)の募金が集まりました。さる3月23日に開かれた最後の同募金委員会では、福田稔募金委員長、山崎恒雄同窓会会長が異口同音に「笑顔でこの委員会を終えることが出来ることを嬉しく思います」と謝辞を述べられました。

最後になりますが、3月23日に同窓会の常任幹事会が開かれ、昨年同様に「大同窓会懇親会」は中止とし、総会のみを4月22日(金)18時から九州学院ブラウン・

青少年特定非営利活動法人

青少年スポーツの
振興を図る会

S25 田山淳朗

川崎会計事務所

税理士 川崎 義治

東京九学会監査役(S11)

〒171-0021 東京都豊島区西池袋5丁目24番12号 西池袋ローヤルコーポ902
TEL(03)3984-2858 FAX(03)3984-2868 URL http://www.kkj.biz

メモリアル・チャペルで行なうことになりましたことをご報告致します。

コロナ禍の先行きはまだまだ予断を許しません。安心して生活出来る日が一日も早くやってくることを切に願います。東京九学会の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

九州学院同窓会 副会長・広報委員長
Isao ♥ KoteGawa (S24)

「趣味を活かして生きがいつくり」

S4 森田 茂



今年3月1日で88歳(米寿)を迎えることが出来ました。

66歳で会社退職後、こんなに楽しい日々を過ごせるとは思っていませんでした。

実は60歳の時に、当時印刷業界の社長さん達の「趣味の発表会」が、向島の料亭「桜茶や」で行われた際、「新内節」(浄瑠璃の一種)を語る社長さんがいらっしゃって、その「新内節」を聞いた時粋だなと感じ、早速お師匠さんを紹介して頂き、平成6年8月4日に弟子入り「新内節」を習い始めました。

毎週火曜日と金曜日が、お弟子さん達に対するお師匠さんからのお稽古の日でしたが、当時ウイークデイには時間がとれなかったので、お師匠さんをお願いして、土曜日か日曜日でお師匠さんのご都合のいい日にお稽古をつけて頂きました。通常お稽古は一人1時間と決まっていたのですが、僕の場合は2時間でも3時間でも、こちらから止めましようと言わない限り、お師匠さんからお稽古を続けて頂いたお陰で、3年3ヶ月で「富士松魯寿賀太夫」と言う芸名を頂きました。当時芸名を頂く方は早い方で5年、遅い方は10年掛かっていましたので、特別に早く頂けたことで、業界で評判になりました。

当時「日本新内協会」所属のお師匠さんは15名程いらっしゃいましたが、そのお弟子さん達の発表会が「日本新内協会」主催で年3回行われていました。有り難

いことに芸名を頂いてから毎年12月の発表会に7年間程出演させて頂きました。

「新内節」は語る本人と三味線伴奏者2名が必要でしたが、芸名を頂いた後、都内の病院や高齢者の団体などから「新内節」を聞かせて欲しいとの依頼があり、三味線伴奏者2名を連れて行きますと費用が大変ですから、伴奏者を1人にして土・日・祭日の都合がいい日に語りに行き、大変喜んで頂きました。

60歳頃から印刷業界の社長さん達の「趣味の発表会」で、年2回程料亭に行っていた際に、色んな踊りに出会ったことから、66歳で会社退職後、これも古典芸能の「江戸芸かっぱれ」を習い始め、お師匠さんと色んな所に踊りに行っていました。上野の「不忍が池」の所に在る「上野恩賜公園野外ステージ」に踊りに行った時、「おかめ・ひょっこ」でお馴染みの「神楽舞」の一種で、明治時代から始まった船橋の「ばか面踊り」に出会い、早速「成田家流」に弟子入りし、ここのお師匠さんと、成田山新勝寺を始め、千葉県の色んな神社のお祭りに踊りに行っているうちに、約3年で「成田家笑仙」と言う芸名と、教えて良いと言う「講師」の免状を頂きました。平成15年8月に地元川口の料理屋の30周年パーティに踊りに行った時に、「江戸芸かっぱれ」とお面踊りの「大黒舞」「酔いどれ」を踊ったところ、習いたいと言う人が6名出てきましたので、その後お稽古場の準備をすると同時に、「伝統芸能普及集団・喜楽會」を立ち上げ、翌年1月から地元川口市の公民館で第一日曜日と第三日曜日をお稽古日として「江戸芸かっぱれ」と「お面踊り」のお稽古を始めました。

丁度その頃「江戸芸かっぱれ」で知り合った仲間達が「お面踊り」を習いたいと言うことで、東京都月島に在り



向島・料亭桜茶や「酔いどれ」

日本の伝統芸能普及集団

喜楽會

成田家笑仙一座

会長・座長 **成田家笑仙**

こと **森田 茂 (S4)**

〒332-0012 川口市本町3-1-15 タカラサンロージェ 1103
TEL/Fax:048-234-8241 携帯:090-9973-0389

寿司・季節料理
くまもと料理

あ づ ま

TEL 03-3213-2728(休日:土・日・祝)

理 容

ニ ュ ー 東 京

TEL 03-3215-2538(休日:日・祝)

〒100-0005 千代田区丸の内3-4-1(新国際ビルB1) **吉村 勉 (S9)**

まず社会教育会館で月1回夜にお稽古をするように教室を開きました。習いに来ている人達が色々な芸を持っている事から、発表する機会を作りましょうと言うことで、「成田家笑仙一座」を立ち上げ、ボランティア活動から始め、各地の老人会や介護施設・神社のお祭り・劇場での演芸会・ホテルでの会社の周年パーティ・結婚式などに呼んで頂けるようになりました。

また平成19年4月29日に、或る芸能団体から両国に在る「お江戸両国亭」に出演依頼があり、お面を着けて踊る「酔いどれ」を踊り終わって、楽屋で衣装をたたく時に、芸能界で有名な先生から「君の踊りは浅草で踊るべきだ。僕が浅草の東洋館を紹介してあげるから来週一緒に行こう」と言われ、翌週5月3日と一緒に「お笑い芸人の登竜門」と言われていた「東洋館」に行き、「彼の踊りは絶対お客に受けるから」と当時の支配人に紹介して頂き、早速翌6月から月2回出演させて頂きました。その後3年半経った頃、「東洋館」の社長さんが息子さんに変った時に、それ迄個人で出演出来ていた芸人が、芸能団体に所属していなければ出れなくなり、ある芸能団体から「我々の団体に入らないか」とお誘いを頂きましたが、年齢も77歳になっていましたので、病気などで迷惑を掛けてはいけなと思いお断りました。現在迄のように健康で過ごせたら、その「芸能団体」に入れて貰っていれば良かったなーと後で思いました。しかし「東洋館」に出演していたお陰で、色々なお師匠さんや有名な芸人と人脈が出来、その後落語のお師匠さんの「独演会」などに「色物」として出演してくれないかとお誘いを受けるようになり、今も踊りに行かせて頂いています。

去る平成25年4月に、中野ライオンズクラブのパーティに呼んで頂いた時に、東日本大震災の被災地であります陸前高田市の市議会議長さんに、このライオンズクラブから復興のため寄付100万円をお渡しになり、この時市議会議長さんをご紹介頂いたお陰で、その年の9月に、陸前高田市に在る「特別養護老人ホーム・高寿園」に「成田家笑仙一座」で慰問し、皆さんに大変喜んで頂き、現地の新聞にも大きく報道されました。

その他に80歳の頃から、主に東京都・埼玉県・千葉

■ 趣味を活かして生きがいづくり
健康第一・楽しく毎日を過ごす



県の公民館に有ります「高齢者学級」等からの依頼で、「趣味を活かして生きがいづくり」(添付図)と言う演題で、僕自身の会社退職後からの活動体験談等を中心に、約30~40分お話し、その後「成田家笑仙一座」の方達の協力で約30分程色々な踊りを観て頂く活動にも力を入れています。特にこの活動を始めた切っ掛けは、日本の平均寿命と健康寿命の差が10歳位在る為、高齢者の皆さんが元気に余生を過ごして頂く為に、趣味をお持ちの方は趣味を諦めないで続けになれば、僕が体験して来たように、広い意味での社会貢献に寄与できるはずですし、必ず楽しいことが起こって参ります。以上

Back to Adelaide
アデレードへ帰省しました

S54 Matthew Berzins

Hello from sunny Australia! The minute I found out that quarantine was no longer required in Australia, I booked my ticket to see my family for 1 month since it had been 2 years since I last saw them. I decided to surprise my mother and sister



but let my brother in on the secret so he could help coordinate the surprise. All the travel requirements in order to enter Australia were a little confusing, however I was surprised at how little all my documents

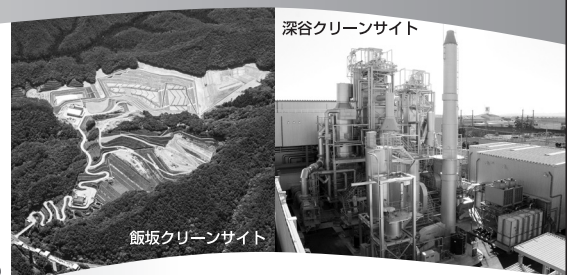
廃棄物処理を通じて社会に貢献します

株式会社クリーンテック

飯坂クリーンサイト
ISO 14001 認証取得
〒960-0261
福島県福島市飯坂町中野字赤落27番
TEL:024-541-2811 FAX:024-541-2510
東京事務所
〒163-0712
東京都新宿区西新宿2丁目7番1号 小田急第一生命ビル12階
TEL:03-6304-5010 FAX:03-5323-6750

株式会社クリーンテックサーマル

深谷クリーンサイト
ISO 14001 認証取得
〒366-0812
埼玉県深谷市大字折之口1985
TEL:048-572-3445 FAX:048-572-3446



相談役名誉会長 反後 堯雄 (S6/昭和29年卒)

クリーンテックグループホームページURL <http://www.clean.ne.jp/>

were checked. No one asked to see a copy of my negative PCR test or vaccination certificate. In fact, I cleared immigration with an automated gate. It was strange to see Australians and my family wearing masks when going indoors since



it was never common to do so. 4 things which are different from Japan is that you need to “check-in” with a QR code when entering buildings, you have to show your proof of vaccination if you want to enter an event space, no-one wears a mask outside and no-one talks about daily infection numbers anymore.



Life is slowly getting back to normal, but I am grateful that COVID has allowed people to work remotely. Being able to do my Tokyo job from Adelaide is amazing! I hope I can do this more often!

(訳文) 陽降り注ぐオーストラリアから今日は。私は2年間も家族と会ってなかったので、オーストラリア入国後の一時隔離は必要なくなった事を知ってすぐ、ひと月一緒に過ごそうとチケットを買いました。母と妹をビックリさせようと決めていましたが、弟には協力させるために内緒の仲間に入れておきました。オーストラリアへ入国のための必要事項は少しばかり面倒でしたが、書類のチェックが簡単なことに驚き、そして誰にもPCR検査陰性や、予防接種済証明の提示を求められることはなく、事実上、自動ゲートを通すだけで入国できました。以前はそうでなかったのに、オーストラリア人、私の家族も屋内に入る時、マスクをするのにはおかしな気がしました。日本と違うことが四つあります。

建物に入るには、QRコードが必要なこと、イベント会場に入場したければ予防接種証明を提示しなければならないこと、屋外では誰もマスクをしていないこと、そして、誰も日々の感染者数の話をしないことです。生活は徐々に普通に戻りつつあります。しかしコロナがリモートワークを可能にしたことは有難いです。東京の仕事をオーストラリアでも出来たのは素晴らしいことです！ 又したいものです。

松本俊宏 feal パイ おじさん

編集部

2月8日、小手川先生から、“嬉しいニュースです”ということで、九学OBの松本俊宏氏(48回卒)が作る「真空冷凍赤牛ミートパイ」がこの度「料理王国100選2022」に選ばれたことのお知らせがありました。以下そのお知らせを紹介します。“「料理王国100選」とは、『料理王国』編集部主催の東京と大阪で2010年より毎年開催されている品評会で、食通の権威ともいべきトップシェフと食品バイヤーの審美眼にかなった数々の美味の一品とのことです。松本氏は九州学院を卒業後、オーストラリアへ留学。ミートパイの本場の一つと言われるオーストラリアでの3年間、ミートパイを食べ続けカフェで働き、帰国後、2004年にカフェfealをオープン。現在は熊本市のサクラマチクマモトにてパイと紅茶の専門店feal【pie&teastand】を営業する傍ら、当初の夢「全国にミートパイを広めたい」との想いから自ら「パイおじさん」を名乗り、全国の蚤の市・マルシェ・百貨店などへ出店しています。パイ生地は熊本県産強力粉をブレンドし、ヒラマヤ岩塩と国産バター、熊本の水を加えて折り上げ、熊本のあか牛をメインにシンプルな具材で味



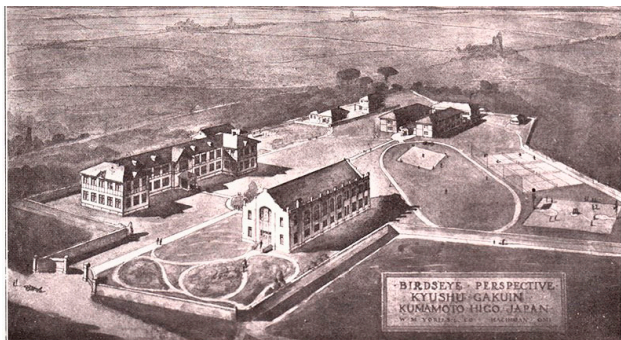
多摩八十八ヶ所第一番札所
真言宗豊山派
安養寺
住職 東京九学会会長 島本誠永(S30)
〒180-0002
東京都武蔵野市吉祥寺東町1-1-21

東京九学会
幹事長 **高森 重視**
(S32)

復読 メレル・ヴォーリズと九州学院

九州学院100周年記念歴史資料情報センター 歴史余話 第三十話メレル・ヴォーリズと九州学院を一部復読・編集させていただきます。原文と写真は <https://kyugaku.ed.jp>aic>yowa>archive> を是非ご覧下さい。(以上 編集部)

九州学院開校2年後の1913年(大正2年)、サウスカロライナ州コロンビアの南部一致ルーテル教会出版局から刊行された『九州学院要覧』(Kyushu Gakuin Memorial)に開校当初の九州学院キャンパス計画図が掲載されています。メレル・ヴォーリズによって「未来予想鳥瞰図」(BIRDSEYE・PERSPECTIVE・KYUSHU・GAKUIN・KUMAKOTO・HIGO・JAPAN、W.M.VORLIS・& CO・HACIMAN OMI)として描かれた「九州学院全景観」(PANORAMIC VIEW OF KYUSHU GAKUIN)です。



PANORAMIC VIEW OF KYUSHU GAKUIN.
In the foreground, to the left is the Administration Building. The roof of the Gymnasium appears over the left rear corner of the Administration Building. Facing the Administration Building is the proposed Chapel and Theological Building combined. In the middle rear, Dormitory Buildings. To rear of Dormitory, Dining Hall and Kitchen. To left of Dormitory Buildings, two Professors' Homes. To the right are proposed Athletic Grounds, including Tennis Courts, Basket Ball Grounds, Running Circle which also can be used for Base Ball.

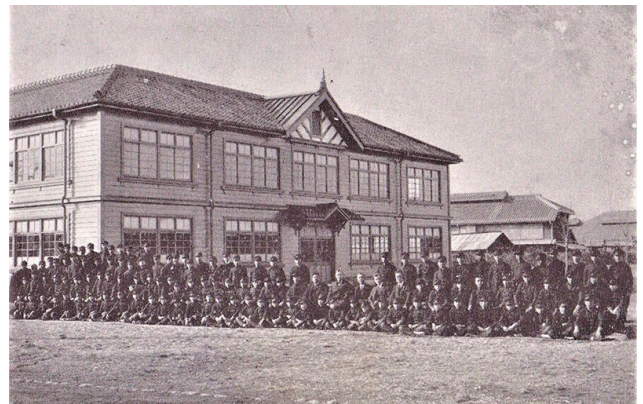
この全景図には、1911年(明治44年)開校時に完成した寄宿舎(上方中ほど)、雨天体操場(本館左角奥)、院長住宅・職員住宅(寄宿舎左奥)、正門(現在の東門)と翌年1912年(明治45年)4月に竣工した本館(前景左手)、寄宿舎食堂(寄宿舎裏)が描かれています。それ以外に、本館前の北側に並行して中央に大きなチャペル(Chapel)が描かれています。このチャペルは神学校舎(Theological Building)を併設したものになる筈でしたが、資金難から予定どおりに建設されることはなく、創設者ブラウン博士亡き後の1925年(大正14年)、改めてヴォーリズ建築設計により、現存の「ブラウン・メモリアル・チャペル」(ブラウン記念礼拝堂・講堂)が

本館と正門の間に建てられました。図の英文の説明を拡大すると以下のように読めます。

In the foreground, to the left is the Administration Building. The roof of the Gymnasium appears over the left rear corner of the Administration Building. Facing the Administration Building is the proposed Chapel and Theological Building combined. In the middle rear, Dormitory buildings. To rear of Dormitory, Dining Hall and Kitchen. To left of Dormitory Buildings, two Professors' Homes. To the right are proposed Athletic Grounds, including Tennis Courts, Basket Ball Grounds, Running Circle which also can be used for Base Ball.

ヴォーリズは、九州学院開校当初から学院全体のキャンパス構想や建築に関わっていたのです。ヴォーリズは、1908年(明治41年)10月京都で建築設計監督事務所を開設し(後のヴォーリズ建築事務所)を開設し、1910年(明治43年)12月建築家のレスター・チャーピン、吉田悦蔵と3人で「ヴォーリズ合名会社」を設立しました。ヴォーリズが建築設計業務を始めたこの年の1月19日に私立九州学院は設立が認可され、学校施設の建築が本格化したのです。

九州学院の校舎・施設でヴォーリズ建築設計によるものを竣工順にあげると、1914年(大正3年)特別教室棟(本館西側)、1916年(大正5年)寄宿舎東棟(寄宿舎南棟・北棟を連結した東棟)、1925年(大正14年)講堂(ブラウン・メモリアル・チャペル)、1931年(昭和6年)創立20周年記念事業で建てられた図書館(チャペル北側)、



1916年東寮完成

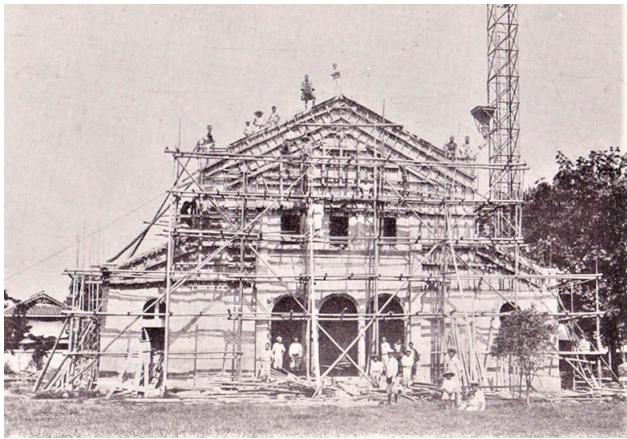
慣れにし学びの 家をわすれず おしえの御親の めぐみを思い・・・

まなびの窓にて かたく結べる むつみの鎖は 解くることなし

S6,J4 東京久憎会会員 東九通信編集幹事 尾上 賢



S4回卒業 小崎義昭先生撮影 1965年頃の九州学院建物群 九州学院100周年記念歴史資料・情報センター 歴史余話「第三十三話」より



1925年竣工のブラウン記念礼拝堂基礎工事



20周年誌 図書館

階段教室棟(チャペル南側・本館東側)、体育館(階段教室棟 南側)です。

ここには学院開校翌年の1912年(明治45年)に竣工した本館は含まれていません。



1912年竣工後の九州学院本館と人物部分拡大

本館の施行業者は「飯田組」です。写真は、九州学院 100 周年記念歴史資料・情報センター おしらせ 2014-06-09 に “ 熊本大学工学部建築学科伊藤重剛研究室所蔵の「九州学院旧本館竣工写真」(施工業者・飯田組提供) を寄贈していただきました。 設立者チャールズ ラファイエット ブラウン宣教師と息子の兄・チャー

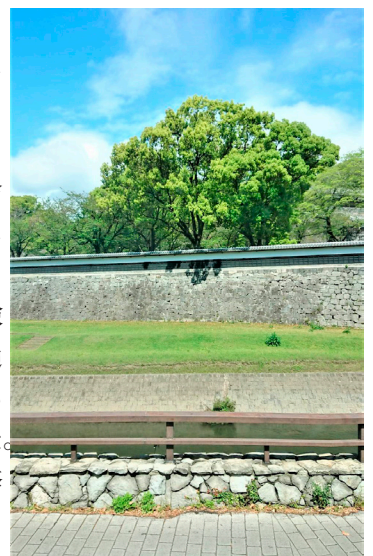
ルズ アルフレッド、弟・ロバート マーシャルも写っています” とあります。

本館の建築は、1910年(明治43年)学院設立認可後に本格的に始まっていることから、設計にヴォーリズ合名会社関わっている可能性はあまりありません。建築様式や構造、意匠が第五高等学校本館(現・第五高等学校記念館)と類似していることから、五高の建築設計者が関わっているのではないかと推測されます。ブラウン博士と共に九州学院設立に尽力なさった初代院長遠山参良先生は1910年(明治43年)9月30日まで英語科の教授として重責を担っておいでになったので、先生が設計・建築を周旋なさっていたとも考えられています。

こうした経緯を踏まえると、ヴォーリズ建築設計が九州学院と本格的に関わるようになったのは、本館が竣工した1912年(明治45年)からで、それが具体的に現れたのが、『九州学院要覧』の九州学院キャンパス「未来予想鳥瞰図」なのです。ここには、ヴォーリズのミッションスクールに対する構想理念が如実に反映されています。ここに計画として描かれ、彼によって設計されたチャペルはその雄姿をキリスト教学校・九州学院の今に留めています。

後記：今日は4月16日です。6年前の未明に熊本地震本震が起きました。

前日の本校同窓会総会出席のため熊本に居て、本震の激震を白川 川畔のホテルで体験し、夜が明けて長堀通りまで行くと、長堀があちこち倒壊していました。それが今、すっかり修復されて芝生の緑が白壁に写って映えています。早くコロナ禍もロシアウクライナ侵攻の余波も去って、われらが故郷 熊本 そして愛する母校九州学院に幸あれ！です。(尾上)



九女 (S28) 杉本明子さん 提供



URL : <http://www.kg-kai.jp/>

九學東京若手の会 KG会 代表 坂本 泰亮(S51)

〒168-0062 東京都杉並区方南1-8-17 株式会社オピカ内
TEL : 090-3492-5372 E-mail : s51sakamoto@kg-kai.jp

メール用QRコード
連絡はこちらから



O P I K A
CREATING FUN TOGETHER

株式会社 オピカ

岡本 明(S34)

〒168-0062 東京都杉並区方南1-8-17 Tel 03-5300-0722 Fax 03-5300-0723 <http://www.oka-p.co.jp>